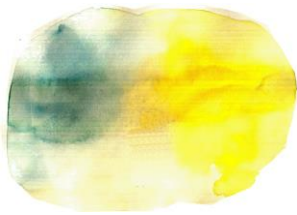


1 課 迫害を言われたイエス様 (マタイ 10:40-42)

フォーラムのポイント 「ほんとうの報いは？」

1 課では「ほんとうの報いとはなにか」をフォーラムしましょう。

イエス様はなぜ迫害について話されたのでしょうか。



ヨハネ1章を見ると、イエス様は光として来られたと書いてあります。

しかし、世の中は暗やみにおおわれていて、その暗やみは光を知らなかったと言われています。

そして、知らなかった程度ではなく、光を受け入れることなく、むしろ光を憎んだのです。だれも知る人はいませんでした。Nobodyです。

その光の前で、人々は自分の暗やみの実体が明らかになることを恐れました。

それゆえ、光を拒んだ(憎んだ)のです。

山に行き、大きな石をのけると、その下にたくさんの虫が、もぞもぞと出て来ます。



その虫は、光をいやがって逃げます。

その虫には、湿気のある暗い石の下が自分たちの居場所なのに、石がのけられた瞬間、



光が差し込むから、いやがるしかありません。

子どもたちを朝に起こすとき、ぱっとカーテンを開けると、光がまぶしいから起きるでしょう。

しかし、良い夢を見ているのに、そのように起こされたら、気分は良くないでしょう。

暗やみはどれほど光をいやがったかという、光として来られたイエス・キリストを十字架につけて殺すほどいやがりました。山上の垂訓のみことばでも言われています。

マタイ 5:10-12

10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

11 わたしのために人々があなたがたをのしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。

12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。

10節を原語であるギリシヤ語の直訳で見ると

「**さいわい**なもの**さいわい**な者たちよ。あなたがたは**てんごく**を**しよゆう**しているから。あなたがたは**はくがい**されます」と書いてあります。

天国を所有したさいわいな者であり、そのさいわいなることが「迫害によって」現れるということです。

それゆえ、12節で「喜びなさい。喜びおどきなさい。」と言われているのです。

ヨハネ 15:18-19

18 もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい。

19 もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえってわたしが世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。

世は、先にイエス・キリストを憎みます。

イエス様のまことの弟子ならば、世は私たちを憎むしかありません。

そのことを通して、私たちは世に属しているのではなく、神の国に属していることがわかるので、喜ぶしかないのです。

マタイ 10:16

いいですか。わたしが、あなたがたを遣わすのは、狼の中に羊を送り出すようなものです。ですから、蛇のようにさとく、鳩のようにすなおでありなさい。

イエス様が弟子たちを二人ずつ遣わされる時に言われたみことばです。

「狼の中に羊を送り出すようなもの」これは、どういうことでしょうか。私たちは羊だと言われました。

これは「行って狼とがんばって戦って勝ちなさい」ではありません。狼と羊は戦えません。

「あなたがたは、羊として狼の中に入って食べられなさい」ということです。

イエス様が世の人から十字架につけられたように。

しかし、そこで終わるものではありません。



マタイ 10:28

からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。



私たちは恐れるべき方を恐れなければならないのです。いのちを主管（ある仕事の責任をもって管理すること）している方は、ただ神様であることを覚えるべきです。その神様が私たちに何を与えてくださったのでしょうか。神様ご自身を与え、永遠のいのちを与えてくださいました。それゆえ、義のために迫害されるまことの伝道者たちが受けるまことの報いは、天国で他の人より大きな家があるというのではなく、神様とともに永遠のいのちの中で生きることができることです。それが伝道者の報いです。

マタイ 10:40~42

40 あなたがたを受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。また、わたしを受け入れる者は、わたしを遣わした方を受け入れるのです。

41 預言者を預言者だというので受け入れる者は、預言者の受ける報いを受けます。また、義人を義人だということを受け入れる者は、義人の受ける報いを受けます。

42 わたしの弟子だというので、この小さい者たちのひとりに、水一杯でも飲ませるなら、まことに、あなたがたに告げます。その人は決して報いに漏れることはありません。」

私たちを受け入れる者は、イエス様を受け入れること、イエス様を受け入れる者は神様を受け入れることだと言われます。そして、水一杯でも飲ませるなら・・・言われていますが、水はヨハネ4章で言われています

ヨハネ 4:14

しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出します。」

伝道者に与えた水一杯によって、永遠に渇かない真理のいのちの水を得ることができるのです。

I コリント 9:14

同じように、主も、福音を宣べ伝える者が、福音の働きから生活のささえを得るように定めておられます。

福音を伝えることが、私を生かす人生の理由となり動機と力なるのです。

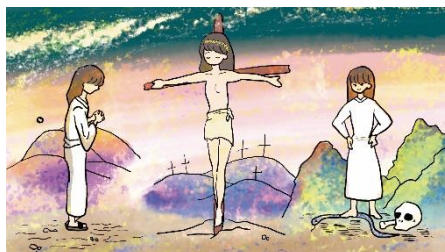
I コリント 9:18

では、私にどんな報いがあるのでしょうか。それは、福音を宣べ伝えるときに報酬を求めないで与え、福音の働きによって持つ自分の権利を十分に用いないことなのです。

偉大な伝道者パウロが、老年になってから記録したコリント人への手紙の中にあることばですが、「私にどんな報いがあるのでしょうか」と言って、私への報いとは「私が福音を伝えることができること」「福音によって与えられた権利をむやみに使うことがないこと」だと言っています。

「権利」とは、もともと自分にあることではなく、神様から受けたものですが、その受けたものを「自分の思いどおりに使うのではなく、正しく使うことができたこと」それが報いだと言っているのです。

むやみに伝えるのではなく、正しく伝えることができることが報いだということです。



私たちが将来行く天国で、ものすごくすばらしい報いが備えられていると思うことはやめましょう。
そのような天国を想像することもあるでしょう。黙示録21章を見ると「碧玉、純金、宝石。碧玉、サファイヤ、玉髓、緑玉、赤縞めのう、赤めのう、貴かんらん石、緑柱石、黄玉、緑玉髓、青玉、紫水晶、真珠、黄金」とあるので、そのようなところかと思うかもしれませんが、そのような天国ではなく、永遠に神様がともにおられること自体が天国なのです。

この世では、私が自分自身をコントロールできず戦いが続きますが、そのような戦いはなく、神様のみこころどおりに動く、神様だけをほめたたえる天国が備えられているのです。

1課では、「ほんとうの報いとは」を祈り、フォーラムしましょう。

